

与那国町食育推進計画（ぶーるしまんすやープラン）第二次

<パブリックコメント実施結果>

分類	件数
①計画全般に関すること	3件
②数値目標に関すること	1件
③施策に関すること	15件
④その他	2件
合計	21件

<意見とそれに対する回答>

	意見	回答	計画内 掲載箇所	分類
1	減塩について注目した。 高塩分摂取が健康に及ぼす影響や減塩がなぜ重要かについて基本的な情報の共有、食品表示を見て塩分計算をする演習、減塩料理のデモなど演習や体験ができる機会を作ってほしい。	過去に、福祉まつりイベント会場にてみそ汁やカップ麺の塩分計測の体験を行ったことがあります。広報誌においても減塩の知識について情報提供等行って参りました。 今後もこういったイベント会場での体験、広報誌やホームページを活用した情報提供、食育ボランティア等地域の力を活用した調理実習等を企画して取り組んで参ります。	施策の展開「よ」よく動き良く食べる「な」長く健やかに	③
2	本計画を達成するには周知（デジタル活用等情報）と実践、あきらめない忍耐力が必要だと考える。	スローガンにも掲げていますように食生活のデジタル化も踏まえた食育の推進を図ることとしております。関係機関団体と連携を深めながら、継続した食育に取り組んで参ります。	第3章スローガンと目指す姿	①
3	与那国町食育推進会議の委員に民生委員を追加希望。男性の一人暮らしに食育等を含めた目を届	一人暮らしの高齢者へは社会福祉協議会が行う配食サービス等のサービスがあります。民生委員の事務局である社会福祉協議会	食育推進会議委員名簿	④

	け、町の人々の死角となっている孤独死を防ぎたい。	とさらに連携を深め、食生活を含めた独居高齢者の暮らしの見守りが行えるように民生委員とともにすすめて参ります。		
4	運動習慣、飲酒について積極的に考えていくべき。大人になると運動習慣がなくなってしまう人が多いが、与那国では様々なスポーツクラブがある。参加や認知が人づてであったりするので、開催日時などを町ホームページやチラシなどで周知するのが良い。	本町のスポーツクラブはそれぞれ自主的な団体として活動しています。紹介については、各クラブと連絡を取りながら行っていきたいと思います。体育協会やスポーツ振興の部局（教育委員会）とも連携を図り、体を動かす習慣のある住民を増やしていきたいと考えます。	施策の展開「よ」よく動き良く食べる	②
5	本町は多量飲酒する場や人が多い。文化としてお酒を飲む場面が多いので「お酒を飲まない週間」などお酒を飲まない文化も作っていくといい。	多量飲酒については、本町の大きな課題の一つとなっています。伝統行事の中で神様に捧げる神酒など文化的な意味で用いられることも多く、人々の暮らしと密接なものでもあります。健康を害する飲み方をしている者も多く、継続的な啓蒙が必要です。また、今回調査の中で、小学5年生、中学2年生に対して「大人からお酒をすすめられたことがあるか」といった調査を行いました。小学生では11.8%中学生では26.7%がすすめられたことがあると回答しています。大人の望ましくない行動が明らかとなり、未成年からの飲酒習慣のきっかけとなる懸念があります。このような事実を重く受け止め、改善策の検討に力を入れていきたいと思ひます。	施策の展開「よ」よく動き良く食べる	③

6	<p>食育に関する意識調査について、回答するだけでもその内容について意識するきっかけになるので、このような調査を定期的に実施していくのも意識付けのためには良い手段である。</p>	<p>本計画の基礎資料を得ることを目的に意識調査を実施しています。今後も評価及び見直しの年に合わせて、調査を行っていく予定としております。</p>	<p>意識調査について</p>	④
7	<p>食育ボランティアのメンバーに協力を強くしてほしいです。</p>	<p>食育ボランティアの皆様には、福祉と健康づくりの集いでのブース出展や中学生向けの郷土料理の教室等さまざまな機会に食育の取り組みを行っていただいております。今後もより一層、食育ボランティアの皆様が活躍できるよう町としても支援して参ります。</p>	<p>施策の展開「に」にぎやかに共に食べよう島の味</p>	③
8	<p>与那国産や県産食材の調理方法など簡単なチラシを配布する等あれば、その食材を購入しようと思えます。</p>	<p>クシティ及び長命草については食育ボランティアによる紹介小冊子を作成し、配布を行っています。また、八重山地区の食生活改善推進員が作成している「伝えたい島々の味」の中でもレシピはございます。</p> <p>今後、JA 女性部や食育ボランティア等地域の方たちの力を借りながら、与那国産や県産食材のおいしい食べ方のご案内ができるように検討して参ります。</p>	<p>施策の展開「に」にぎやかに共に食べよう島の味</p>	③
9	<p>歯磨きの大切さを子供はもちろん大人にも教えたらいと思います。歯がない大人、若者を多く見かけるので。</p>	<p>沖縄県全体として子ども（3歳児）のう歯（むし歯）の有病率は減ってきています。しかしながら、歯を失う原因となる歯肉に炎症のある40・50・60歳代は増加しています。島内に歯科医院が無い状況で歯科保健の推進が</p>	<p>歯科保健について</p>	③

		課題となっています。町全体として県とも連携を図りながら、歯科医療の充実を図りたいと思います。		
10	地域社会の人たちの中では特に肥満者の割合や飲酒者の割合が依然として高いのが気になります。このため、運動習慣や体重測定、食生活改善事業の取り組みは強調すべきものだと思います。	肥満、多量飲酒は本町の大きな課題となっています。肥満も飲酒習慣もさまざまな要因が複雑に絡み合って結果として現れているものです。基本的な健康習慣（体重計測、栄養バランスの取れた食生活、適度な運動習慣など）を身に着けられるよう、専門職からの指導の他、自然に健康になれる環境づくりにも取り組んで参ります。	施策の展開「よ」よく動き良く食べる	③
11	先人たちの暮らしには、常に知恵と工夫がありました。今、SDGsが話題となっていますが、節約や節電、節水を「もったいない」を合言葉にして推進してはと思います。地域組織のネットワーク、特に公民館や図書室などを情報源として活用できればと思います。	第二次の計画では新たにSDGsの視点での取り組みを追加しています。世界規模で見たときに、小さな一歩ではありますが、取り組んでいくことが重要だと認識しております。また、地域組織の活用としまして、食育ボランティアの協力を得ることが多くありますが、食育推進会議の委員として参画していただいております自治公民館、教育委員会を通じての図書室の活用も積極的に行っていきたいと思います。	施策の展開「く」くらしの中に知恵と工夫	③
12	「食」への気配りは、忙しい時代にあっては難しくなってきました。学校の給食や家庭科の授業などを通じて食育を行うことは今こそ推進していかなければならないのではないかと思います。	学校の給食や家庭科の授業等で担任ほか、栄養教諭、専門科目教諭、養護教諭からの取り組みがなされているところです。学校では時間数も限られる中での食育の取り組みとなりますが、保護者を含む家庭や、地域からの取り組みも推進されるよう働きかけて参	施策の展開「な」ながく健やかに	③

		ります。		
13	与那国をとりまく食に対する環境はなかなか困難で大人でも食に対する意識は少ないので子供たちの食育の指導をした方が将来の展望は見えてくると思う。	食育は全世代に対して行っていくべきものですが、特に子どもの頃の食生活習慣は一生の健康の土台作りの時期であり、大変重要なものであります。大人に対しての食育も継続しながら、子供に対する食育により一層力を入れて参ります。	施策の展開「に」にぎやかに共に食べよう島の味	①
14	子どもを取り巻く環境では、学校などのクラブ活動に所属している子どもたちが島外での大会に参加する機会が少ないため、日々の練習でのモチベーションが上がらず、継続した運動習慣や発育発達にあった運動に導くのが難しいと感じる。	離島の環境のため、子どもたちのスポーツ大会に参加する機会が少ないことは確かです。学校、教育委員会のさらなる取り組みが必要であるとともに、地域にあるクラブ活動において、例えば陸上競技の記録会を定期的に行う場面に大人だけではなく、子どもたちも参加できるようにするといった工夫など、地域の大人と一緒に運動に取り組めるようにしていけたらと考えます。	施策の展開「よ」よく動き良く食べる	③
15	身体をたくさん動かせば、自然と食事につながることができ、バランスの取れた食事を意識させる等、食育への動機づけが容易になると思う。	身体を動かすことで空腹感がうまれ、食事がおいしくなります。運動と食事のバランスが大切です。また、運動習慣を身につけること、自分の身体に注目することで、食事への興味も高まると考えます。食事だけではなく、身体活動・運動の面からも食育へのアプローチを行ってまいります。	施策の展開「よ」よく動き良く食べる	③
16	小中学校の部活・クラブ活動の大会派遣に係る補助金を積極的に執行し、または、新たな取り組みの補助金（スポーツ用品等の購入助成金）創設な	小中学校の部活動については、教育委員会が主管となります。大人への運動習慣についても教育委員会や体育協会と連携を深めながら取り組んで参ります。	施策の展開「よ」よく動き良く食べる	③

	どで、子どものみならず大人への運動習慣定着を図る施策。			
17	大人、成人の多量飲酒は地域の特性が大きく影響していると感じる。娯楽や余暇を過ごす場所の少なさなど。	ご意見の通り、娯楽の少ない環境において、お酒を通じた集まりを楽しみにしている方が多いと感じます。お酒を介さずに、公民館活動や趣味を通じた仲間づくりやコミュニケーションの取り方を進めたいところではありますが、長年かけて形成されているこの町の習慣を変えていくことは容易ではありません。一歩ずつ小さな取り組みを積み重ね、長い目で健康習慣が身につけられるよう、進めて参ります。	施策の展開「な」ながく健やかに	③
18	伝統行事食や祭事の際に余りがちな供え物の新しい食べ方の提案アレンジレシピが欲しい。	食品ロスを減らす運動が全国的に普及してきている昨今、本町では伝統的な行事を守るために、たくさんのお供えを作る習慣が残っています。この余ったお供え物を無駄なく食べていくことはSDGsの観点からも大変重要です。食育ボランティアや公民館の知恵を借りながら、お供え物の活用法を検討して参ります。	施策の展開「く」くらしの中に知恵と工夫	③
19	町の食育は子ども（0～15歳）に関しては前向きな取り組みや改善傾向が見られるが、中高年世代になると改善が厳しい様子が見られる。	長い年月をかけて身についた生活習慣は、大きな動機やきっかけが無いと変えることは難しいと感じます。難しいことではあっても、それは不可能ではなく、ひとりひとりの健康づくりのきっかけづくりとなるような情報提供や事業の展開を進めて参りたいと思います。	施策の展開「な」ながく健やかに	③
20	公民館、体育協会は高齢	高齢期が近づくと、生活活動が減	施策の展	③

	者に近づけば近づく程、参加型は厳しくなり、取り組みも減少していくと思う。この年代をどう取り込むかが改善値を上げていくと思う。	り、他人との交流も減りがちです。地域の方と話す機会やボランティア活動等社会参加は自立した暮らしを続け健康寿命を延ばすのに大変重要な要素です。社会福祉協議会といった組織を中心に地域、家庭、すべてが協力し合い、高齢期の活発な活動に繋がりたいと考えます。	開「な」ながく健やかに	
21	現存する組織をどう動かしていくか、役場庁内で取り組んでいくことが必要だと思う。この計画に限らず、町すべての計画において必要なことだと思う。	本町総合計画（第5次）が策定され、町政の方向性が示されています。健康づくりや食育に関しては第2章医療・福祉「生きがいと笑顔のある健康な与那国」に関連する施策として掲げられ、さまざまな関連施策と整合性を保ちながら推進されることとしております。庁内においても横の連携を密にし、関係機関・団体の協力も得ながら、総合計画に掲げる「笑顔で健やかに住み続けられる 自然・暮らし・歴史文化が調和する島」を目指します。	計画全体	①